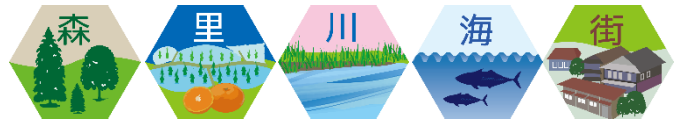


# 早川地区



## 【地区の自然環境概要】

早川地区は、森、里、川、海及び街の要素を持つ地区です。

北西部の広範囲は「富士箱根伊豆国立公園」区域にあたり、箱根外輪山の雑木林が広がる自然豊かな地域です。また、中央部は主にスギ・ヒノキの人工林が広がり、森林環境を好む動植物の生育・生息の場となっています。

中央部から東部にかけてはミカン畑などの果樹園が広がり、丘陵地等の里地里山環境を好む動植物の生育・生息の場となっています。

東側で約 1.6km にわたり相模湾に面する海岸の一部には、貴重な自然の砂浜海岸が残っており、海浜を好む動植物の生育・生息の場となっています。また、広大な海は魚類等の動植物の生育・生息の場となっており、小田原漁港からは日々、新鮮な魚介類が水揚げされます。

北側に位置する大窪地区との間には早川が流れ、河川や河川敷などの水辺環境を好む動植物の生育・生息の場となっています。また、小田原漁港や早川河口部周辺には住宅地が広がり、市街地や住宅地を好む動植物の生育・生息の場となっています。



## 【地区で見られる動植物】

山地森林から丘陵地の環境が主に広がり、このような環境を利用する動植物の生育・生息の場となっています。特に、常緑広葉樹林は多様な動植物が集まる貴重な場であり、大切に守っていききたい環境です。

- 市街地から山地など幅広い環境を利用するイワツバメやエナガ等の鳥類、アカボシゴマダラ等の昆虫類、丘陵地でよく見られるアオキ等の植物が確認されています。<sup>1</sup>
- 「石垣山」には常緑広葉樹林が広がり、スタジイやウラジロガシ等の巨樹も生育しています。ニホンリス等の哺乳類、イカル等の鳥類、シロマダラ等の爬虫類、ナナフシ等の昆虫類などが見られ、樹林を特徴づける種が生息しています。<sup>2</sup>また、雑木林等を生息地とするヒメボタルも見られます。<sup>3</sup>
- 「白銀林道」には人工林と二次林が広がっています。クロモジやモミジガサ等の植物、ニホンジカ等の哺乳類、アカゲラ等の鳥類、セアカツノカメムシ等の昆虫類などが見られ、樹林を特徴づける種が生息しています。また、山地に生息する比較的珍しいヒメキマダラヒカゲ（昆虫類）も生息しています。<sup>4</sup>

<sup>1</sup> 参考：平成 29 年度 小田原市自然環境等現況調査委託業務 文献調査結果

<sup>2</sup> 参考：平成 30 年（2018 年）～平成 31 年（2019 年）に実施した現地調査結果

<sup>3</sup> 参考：平成 29 年（2017 年）～令和元年（2019 年）に実施したヒアリング調査結果

<sup>4</sup> 参考：平成 30 年（2018 年）～平成 31 年（2019 年）に実施した現地調査結果

- 早川沿いでは、ポントクタデやツルヨシ等の植物、ダイサギやオオヨシキリ等の鳥類、シマヘビ等の爬虫類、コオナガミズスマシ等の昆虫類などが見られ、水辺環境を特徴づける種が生育・生息しています。魚類では、早川河口部で、ウグイやゴクラクハゼ等の河川中下流域や河口部でよく見られる種が生息しています。早川中流域では、流れの速い溪流環境でよく見られるボウズハゼやルリヨシノボリが生息しています。<sup>5</sup>



エナガ

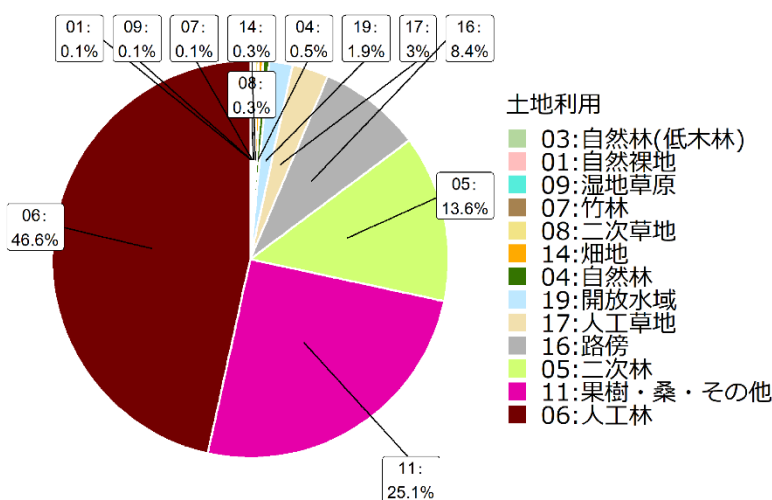


アカボシゴマダラ

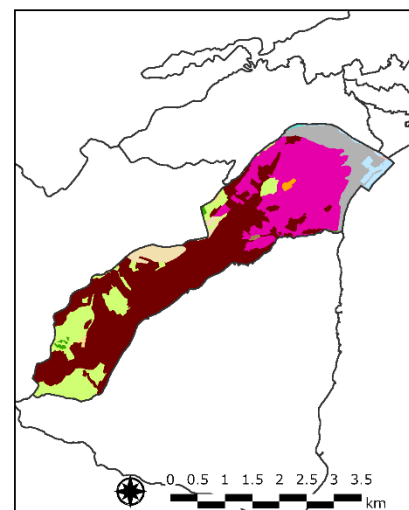


ダイサギ

- 植生図をもとに作成された土地利用を見ると、西部から中央部にかけて人工林や二次林が広がり、森林環境が約 6 割を占めています。中央部から東部にかけては、果樹園が広がり、土地利用の約 2.5 割を占めています。北東部には主に路傍が広がっています。<sup>6</sup>



早川地区の土地利用割合



早川地区の土地利用

## 【暮らしと自然のつながり（生態系サービス）】

自然体験・観察の場や身近にある緑、食の供給や生活環境の調整など、日々の生活の中で自然環境からの恩恵を受けています。

### ～文化的つながり～

- **自然体験・観察の場**：「石垣山一夜城」は、富士箱根伊豆国立公園内に位置し、シイ・カシの二次林が広がる自然豊かな場所です。石垣山は、天正 18 年（1590 年）に豊臣秀吉が小田原北条氏を滅ぼすべく、山頂に石垣を高く積んだ堅固な城を築いたことから呼ばれるようになりました。<sup>7</sup>石垣山は箱根外輪山の末端にあり、溶岩でできています。石垣山の石垣は、箱根火山の溶岩を加工せずに、自然のまま利用した野面積とよ

<sup>5</sup> 参考：平成 30 年（2018 年）～平成 31 年（2019 年）に実施した現地調査結果

<sup>6</sup> 出典：日本全国標準土地利用メッシュデータ（国立環境研究所）

<sup>7</sup> 出典：小田原市 HP 史跡 <http://www.city.odawara.kanagawa.jp/field/lifelong/property/cultural/historic/s-ishigakiyama.html>

ばれる方式で積まれています。<sup>8</sup>ここは、ヒメボタルやキノコ類、芝地の植物や昆虫の観察など、丘陵の自然観察にも適しています。<sup>9</sup>

- **自然体験・観察の場**：「小田原漁港」周辺の海岸は釣り場としても利用されています。<sup>10</sup>また、早川の「風祭橋」周辺はアユ等の釣り場となっており、レクリエーションの場として活用されています。
- **教育施設**：「早川小学校」は、PTA 学校林を所有しており、老人会と PTA は自ら学校林に植えた木を切り、早川小学校の校庭にウッドデッキや、テーブル、ベンチを作るなど、地域と学校のつながり、世代間の交流を図っています。<sup>11</sup>
- **神社・寺院**：神社や寺院が多数あります。社寺林は、生活の身近にある緑として住環境の向上や心の安らぎに寄与します。また、一般的に神社・寺院の境内は、こどもの遊び場としても役立ってきました。「紀伊神社」は、木地挽業者が祖神（神としてまつる祖先）の惟喬親王を奉祭した神社である<sup>12</sup>とされており、古くから森などの自然とつながりがあります。また、クスノキやバクチノキの大木、キチジョウソウなどの下草等、暖帯林の植物の自然観察にも適しています。<sup>13</sup>

◆「紀伊神社」

早川の氏神様で、往古は木宮大権現、のち紀伊宮大権現と称され、土地の人からは「木の宮さん」と呼ばれ、箱根物産木工業の人たちに昔から崇拝されてきた神社です。なお紀伊神社の社宝である「木地挽」は小田原市の重要文化財に、社叢は天然記念物にそれぞれ指定されており、中でも社殿前のクスノキは市内で最大の老木です。<sup>14</sup>

- **景観スポット**：「石垣山一夜城」や早川駅から石垣山を登る坂道からは、相模湾や市街地の眺望を楽しむことができます。

～食のつながり～

- **果樹**：中央部から東部にかけてはミカン畑などの果樹園が広がり、食を供給しています。
- **魚介類**：「小田原漁港」は、相模湾や伊豆近海の好漁場が近くにあり、交通の便とあいまって漁業発展の好条件に恵まれていて、県西地区水産物の流通拠点となっています。漁港内にある市場では、小田原漁港からの陸揚と全国から陸送される水産物が、年間約 1 万 4 千トン取り引きされ、県西・湘南地域 3 市 9 町、約 58 万人に出荷されています。「小田原漁港」では、主な魚種だけで約 60 種も水揚げされており、また各々の季節で旬の魚が獲れるため、春夏秋冬の旬の味を楽しむことができます。<sup>15</sup>

～生活環境とのつながり～

- **気候の調整**：水の蒸発による潜熱効果は周囲の気温を低下させる機能があります。水の蒸発散量を評価<sup>16</sup>すると、市内で 3 位となります。

<sup>8</sup> 出典：箱根ジオパークガイド 1（NPO 法人小田原ガイド協会）

参考（ヒメボタルの記述）：平成 29 年（2017 年）～令和元年（2019 年）に実施したヒアリング調査結果

<sup>9</sup> 出典：小田原の自然（小田原市教育研究所、平成 9 年（1997 年））

<sup>10</sup> 「小田原漁港」内は一部立ち入り禁止場所があります。 <http://www.pref.kanagawa.jp/docs/s3w/cnt/f70122/p367373.html>

<sup>11</sup> 出典：小田原自治会総連会 HP をもとに作成 <https://odawara-jichisoren.net/section/hayakawa/>

<sup>12</sup> 出典：小田原市 HP 指定文化財

<http://www.city.odawara.kanagawa.jp/field/lifelong/property/cultural/kougeihin/k-kiizinnzya.html>

<sup>13</sup> 出典：小田原の自然（小田原市教育研究所、平成 9 年（1997 年））

<sup>14</sup> 出典：紀伊神社社頭掲示をもとに作成

<sup>15</sup> 出典：神奈川県 HP 西部漁港事務所 小田原漁港地域情報 <http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/p967518.html>

<sup>16</sup> 出典：環境省(2016) Japan Biodiversity Outlook 2. <http://www.biodic.go.jp/biodiversity/activity/policy/index.html>

- **水の調整**：森林などの生態系には、降水を地下へと浸透させるなどして緩やかに流下させる機能があります。その機能の一部である地下水への涵養量を評価<sup>17</sup>すると、市内で2位となります。
- **土壌の調整**：樹木や草などの植物には、根により土壌を保持する機能があります。森林や農地の持つ土壌流出防止量を評価<sup>18</sup>すると、市内で2位となります。また、土壌に含まれる栄養塩類は河川へ流入し、植物プランクトンのエネルギー源となりますが、過剰に供給されると水質悪化につながります。植物の根が保持する土壌により、河川へ流入する栄養塩類の量を調整することができます。土壌による栄養塩類（窒素及びリン酸）の維持量を評価<sup>19</sup>すると、市内で窒素：1位、リン酸：3位となります。
- 上記の評価結果は、地区の大部分を占める森林により得られている効果であると考えられ、地区内だけでなく周辺地域の気候や水質等の生活環境もよくしています。

### 【地区で見られる特徴的な自然】

国立公園区域や鳥獣保護区等に指定されるなど、大切に守り残していきたい自然環境が存在しています。

- **国立公園・自然環境保全地域・特定植物群落**：北西部の「箱根外輪山」には、主に落葉広葉樹からなる二次林が残されており、富士箱根伊豆国立公園の第3種特別地域にあたります。この地域は、特定植物群落（環境省選定）<sup>20</sup>、神奈川県自然環境保全地域<sup>21</sup>にも指定されています。

#### 国立公園概要

国立公園名称	特別地域名称	区域	地区の概要
富士箱根伊豆国立公園	外輪山	大字石橋、大字久野、大字根府川及び大字早川の各一部	箱根外輪山の外壁部分で、一部に国有林、分譲地があるほかは、広葉樹に覆われた山林となっている。

※出典：富士箱根伊豆国立公園（箱根地域）公園計画書（環境省,平成27年（2015年））

#### 特定植物群落選定理由

名称	選定理由
箱根外輪山の雑木林	原生林もしくはそれに近い自然林、郷土景観を代表する植物群落で、特にその群落の特徴が典型的なもの

※出典：第5回自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査報告書（環境庁自然保護局生物多様性センター,平成12年（2000年））

#### 神奈川県自然環境保全地域概要

名称	指定年月日	地域の特徴
片浦・早川	昭和49年（1974年）7月1日	箱根外輪山の南斜面で南に相模灘を臨み北側は国立公園に接する地区で、スギ、ヒノキの植林地とモミ林、風衝低木林がある

※出典：神奈川県 HP 神奈川県自然環境保全地域の指定状況 <https://www.pref.kanagawa.jp/docs/t4i/cnt/f10578/p34320.html>

- **鳥獣保護区**：「石垣山愛護林」は、身近な鳥獣生息地（市街地及びその近郊において鳥獣の良好な生息地を確保し、豊かな生活環境の形成に資するため必要と認められる地域、または自然とのふれあい若しくは鳥

<sup>17</sup> 出典：環境省(2016) Japan Biodiversity Outlook 2. <http://www.biodic.go.jp/biodiversity/activity/policy/index.html>

<sup>18</sup> 出典：環境省(2016) Japan Biodiversity Outlook 2. <http://www.biodic.go.jp/biodiversity/activity/policy/index.html>

<sup>3</sup> 出典：環境省(2016) Japan Biodiversity Outlook 2. <http://www.biodic.go.jp/biodiversity/activity/policy/index.html>

<sup>20</sup> 特定植物群落：わが国の植物相を形づくっている植物群落のうち、規模や構造、分布等において代表的・典型的なもの、代替性のないもの、あるいはきわめて脆弱であり、放置すれば存続が危ぶまれるものなどについて、その実態を把握し、保護対策を検討する必要があるとして、環境省が実施する自然環境保全基礎調査で特定植物群落に選定されたもの

<sup>21</sup> 自然環境保全地域：森林、草原、河川、湖沼、海岸若しくは海面の区域又は自然環境がこれらに類する区域で、自然的社会的諸条件からみてその区域における自然環境を保全することが特に必要なものとして知事が指定した地域

獣の観察や保護活動を通じた環境教育の場を確保するため必要と認められる地域)として、鳥獣の捕獲を禁止し、その生息環境を適切に保全しようとする区域として、神奈川県鳥獣保護区に指定されています。

- **神奈川県生物多様性ホットスポット**：「早川河口」及び「石垣山付近」は、希少種、レッドリスト種などが集中して産する地域として、神奈川県生物多様性ホットスポット（NPO 法人神奈川県自然保護協会選定）に選定されています。

神奈川県生物多様性ホットスポット選定理由

名称	選定理由
早川河口	希少種、レッドリスト種などが集中して産する地域
小田原市石垣山付近	

※出典：かながわの自然 No.67（NPO 法人神奈川県自然保護協会、平成 30 年（2018 年））

- **巨樹・巨木林**：「飛乱地」「紀伊神社」「真福寺」「石垣山」に生育する次表の樹木は、環境省が実施する自然環境保全基礎調査の巨樹・巨木林調査<sup>22</sup>で、保全すべき巨樹・巨木林に選定されています。

巨樹・巨木林概要

所在地	樹種	樹高(m)	樹幹(cm)	調査年
飛乱地	バクチノキ	30	520	平成12年（2000年）
紀伊神社	クスノキ	25	580	平成12年（2000年）
	ケヤキ	0	400	平成12年（2000年）
	タブノキ	20	380	平成12年（2000年）
	タブノキ	25	350	平成12年（2000年）
真福寺	タブノキ	25	460	平成12年（2000年）
石垣山	スダジイ	15	480	平成12年（2000年）

※出典：第 6 回自然環境保全基礎調査 巨樹・巨木林フォローアップ調査報告書（環境省自然環境局生物多様性センター、平成 13 年（2001 年））

- **天然記念物**：「飛乱地」「真福寺」「紀伊神社」内の次表の樹木は、天然記念物に指定されています。

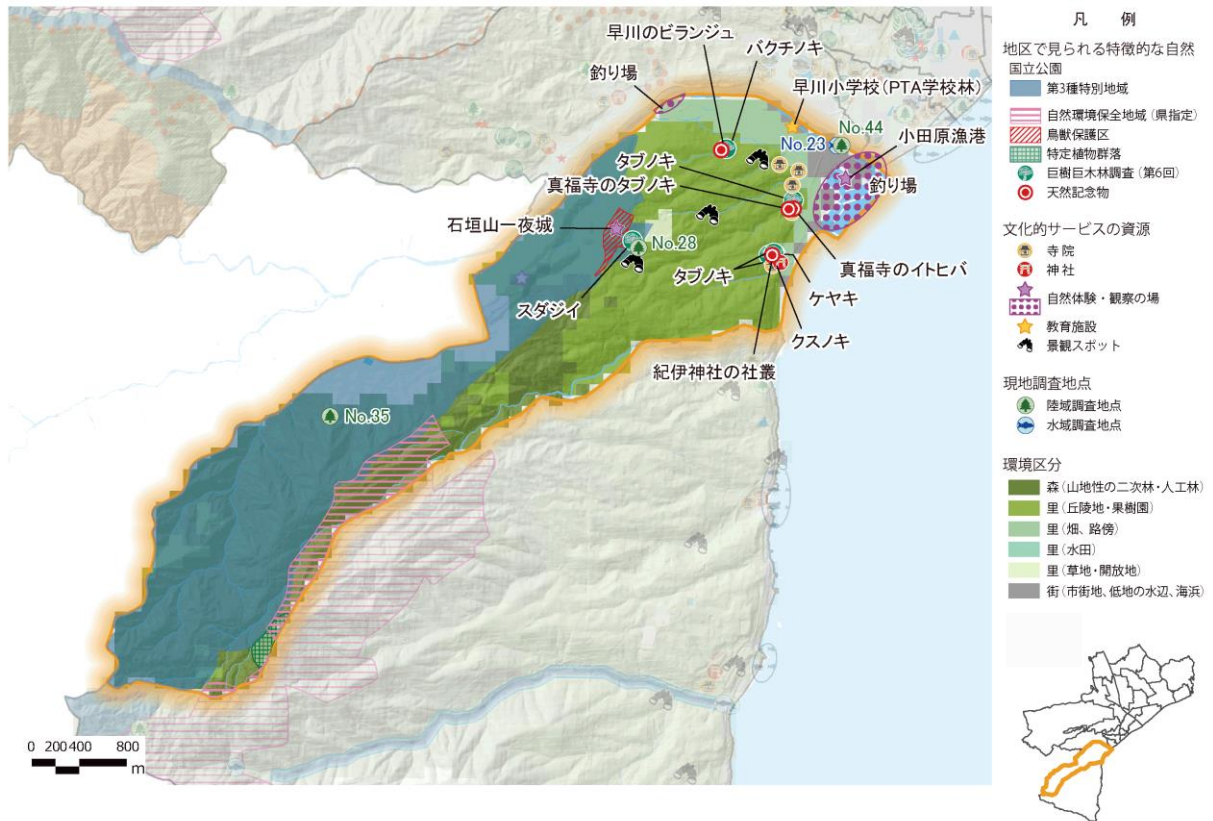
天然記念物概要

名称	指定	指定年月日	所在地	概説
早川のピランジュ	国	大正13年（1924年） 12月9日	早川飛乱地	ピランジュは、温暖帯南部の植物で、小田原から東北部にはほとんど見られず、植物分布上その東北限にある巨木であることから、学術上貴重なものとして、国指定の天然記念物となっている。
真福寺のタブノキ	市	昭和56年（1981年） 3月30日	真福寺	タブノキは、温暖帯林の代表的な広葉常緑樹で、海岸地方や丘陵地に多く生育して、社寺林を構成する主要な樹木の一つ。このタブノキは、市内最大級の古木。
真福寺のイトヒバ	市	昭和56年（1981年） 3月30日	真福寺	イトヒバは、市内の寺院に多く植えられている木だが、この木はそれらの中で最大級のもの。
紀伊神社の社叢	市	昭和56年（1981年） 3月30日	紀伊神社	紀伊神社の社叢は社殿南西側の残存自然林と、境内に植えられた樹木とが渾然一体となっている森。クスノキ、タブノキ、ケヤキ等の広葉常緑樹や落葉樹、針葉樹が混生しているが、中でもケヤキは、社叢の山林部の主体となっていて、数本が繁茂している。社殿の前にあるクスノキは、市内最大級の老木。

※出典：小田原市 HP「天然記念物」をもとに作成 <http://www.city.odawara.kanagawa.jp/field/lifelong/property/cultural/natural/>

<sup>22</sup> 巨樹・巨木林調査：巨樹・巨木林は、わが国の森林・樹木の象徴的存在であり、良好な景観の形成や野生動物の生息環境、地域のシンボルとして人々の心のよりどころとなるなど、保全すべき自然として重要である、として、その全国的な実態を把握することを目的に実施されている調査

- **重要地点**：平成 29 年（2017 年）～30 年（2018 年）に実施した自然環境調査結果の評価・分析を行ったところ、「箱根外輪山の雑木林」は、重要な自然として多数指定を受けているため、将来に渡り守っていくべき重要地点として選定しました。また、現地調査結果を踏まえ重要種が多いと評価された現地調査地点「陸域 No.44（早川河口部）」を、同様に重要地点として選定しました。



早川地区の自然環境マップ